

保健調剤基礎コースを受講して

期日 2018年4月9日～4月12日

講師 (有)ネオフィスト研究所 吉岡ゆうこ先生

報告者 山下 博之

私はこれまで病院薬剤師として業務を行ってきましたが、現在の薬局の業務については知らない点が多く、本研修会は大いに多くの事を学ぶことができました。その中で私にとって重要な要点となった点について報告させていただきます。

1. 薬剤師・薬局を取り巻く環境変化

2035年の保健医療システムの構築に向けたパラダイムシフトが必要となっている。現在の医療は高齢者の増加に伴う医療費の増大に加え生産人口の減少による税金収入の低下という深刻な課題が突き付けられている。その中で医療のあり方、薬剤師の役割、そして薬局機能を考えていく必要がある。その為の方法としてかかりつけ薬剤師としての患者対応は重要になると考えている。また健康サポート薬局へのシフトは、様々なニーズに対応できる薬局の形として保健調剤を主体とする薬局から、地域において健康相談や一般用医薬品や医療機器等の供給を担う場として益々重要となることが予測される。

これからはかかりつけ薬剤師としての役割を担うことは当然であり、健康サポート薬局を目指して薬局機能を整備していかなければならないと感じた。

さらに薬剤師が高い専門性を有する事、多職種での連携を進め薬剤師の役割を明確にすること、そして何よりも医薬品の安全性の確保のために業務を遂行することが求められており、それらを目指すことは自身の役割であると考えている。

2. 診療報酬・調剤報酬

病院の診療報酬についてはこれまで積極的な情報収集によりある程度把握していたが、薬局の調剤報酬の内容を学習したことで保健医療全般について考える事ができた。これは医療連携を進める中で役立つと考えている。また調剤報酬の概要を知り、詳細な点数算定や算定要件を理解できたことで日常業務での対応に自信が持てるようになったことは大きい。

3. 薬剤師関連法規

特に医療事故・インシデントについて過去の事故事例や判例について改めて学ぶことができ、これから新たな職場で責任の重い仕事を担う上での心構えができた。

さらに今後の副作用報告制度やプレアボイド報告制度薬局版が運用されることもあり、薬局薬剤師の役割と責任が益々重要になると考えており、是非とも取り組んでいきたいと思う。

最後に本研修会参加の機会を与えてくださいました(株)ハートフェルト 稲葉社長に感謝申し上げます。